

第5回 旧広島陸軍被服支廠の活用の方向性に係る懇談会 議事録

日時 令和4年12月21日(水) 13時00分～
場所 広島県庁自治会館301会議室

1 開会

事務局より開会挨拶, 委員紹介

2 議題

(1) 経過報告

- ・第4回ワークショップの結果報告
- ・ワークショップと懇談会の集いの結果報告

(2) 分野別委員からの活用アイデアに対する意見交換

- ・文化財を活かした民間事業と地域づくり

株式会社デキタ 代表取締役 時岡 壮太

岡田委員 数年前に学生を連れてお邪魔した。地元の雑貨屋で親切にいただいた。芋あらい機の仕組みなど教えてもらった。

安部委員 提案は今までの議論に寄り添ったアイデアであったと感じる。活動内容について5年で14軒のリノベーションをしたという話であるが、資金はどのようにして集めたのか？

時岡委員 自社でやっているカフェ, オフィス, 宿泊施設は基本は自社資金で1/3程度は国の補助金。シェアオフィスは総務省, 宿は文化庁の補助金を活用した。現在新たに設立した株式会社クマツグでキャンプ場の開発をしている。デキタとクマツグの2社で開発を進めている。補助制度を利用し借入リスクを最小限に抑えている。観光, 商業, まちづくりの予算は各省庁よりお金が出ているので利用していくべきである。基盤整備は行政が行い, 民間が借りやすくすることが(テナント誘致上)重要である。

岡田委員 文化庁の資金は具体的にどういうものを使われているのか？

時岡委員 歴史文化基本構想を活用した観光まちづくり補助金であったと思う。ハード整備で活用した。会社運営には公共の資金は入っていない。

平尾委員 3点質問したい。1点目は, シェアオフィス。広島でも数があるが, 増えてくるとどこから入居者を連れてくるのかが問題になる。時岡さんのところで入られている方はどこから来られているのか, どんな人なのかお聞きしたい？

2点目はエリアイメージを変化させるのは難しい。その町のイメージをどのように変えていったのか？最初は摩擦などあったのではないかと

3点目は広島ならではの、こういうことができるのでは？というご意見をいただきたい。

時岡委員 シェアオフィスは若狭町では初であり、一定のニーズがあった。ニーズは都会と似ていると感じた。1社でやられているグラフィックデザイナーの方は、他の事業者と話ながらできる、コラボレーションしやすいという理由での入居であったし、トレイルのガイドの方はお寺にオフィスを持っていたが他の方にレクチャーするために、フリースペースとカフェがあるというので入居してこられた。2人とも現在はまちづくりの仲間として一緒に事業もやっている。都会と同様のコラボレーションが発生している。大々的な募集をしたことはない。

エリアイメージは、中山間の集落で自然も近いという時代の流れと40年におよぶ歴史資源の保存活動の結果が繋がった成果と感じている。家の2階でやっていたECサイトの本拠地を移してきた、栄養士をやっていた方が独立してカフェということで実現したといった事例がでてきた。メディアに載っている町といった実利も含めて飛び込まれてきた。全くないところから単身頑張ってもイメージは作りづらい。

歴史的遺産は観光領域での活用に偏りがちである。広島市、広島県が宅地のエリアリノベーションのために活用すると、観光以外での良い事例ができると思われる。文化財業界にとってインパクトが大きい。運営母体、受け皿を周りの住宅地にも作れば良い循環が生まれる。また、誰がやるかが重要である。

岡田委員 25年以前から、重伝建などブランディングはできていた場所であるのか？そこに新しいイメージを加えていったのか？

時岡委員 伝建地区として26年前に指定されている。宿場としてハード面の再生が進められてきた。

民間事業としてソフト事業を進めていくとき、宿場というイメージを全面に出していくか？に迷いがあった。山村や自然との共生という部分を打ち出す方針とした。宿場の再生という取組とバッティングするかというと、山村を活かしたイメージづくりにに対しては特に問題は出なかった。

田中委員 土木遺産の活用もやっている。文化財の活用とエリアマネジメントをしている。被服支廠の周辺に夜は人がいないというのは都市計画的課題であり、素晴らしいご指摘だと思う。被服支廠の周りが盛り上がらないと活用ができないと考える。

最後のスライドにあったプロジェクトの成功イメージは、通常の施設であれば、これでよいが、被服支廠の場合は少し違うのではないかと感じた。特に、8月6日はこれではだめでは？と感じているがいかがか。

また、気仙沼の事例は、被服支廠の活用に対してたいへん重要な事例だ
と思うので、具体的に教えてほしい。

時岡委員 被服支廠のイメージとして違っていたのであれば申し訳ない。最後のペ
ージは周辺の変化を成功指標として出したものである。

気仙沼は、立命館大学の阿部先生と 6 年ほどかかわった事業である。流
されてしまった旧市街地の住民参加の計画作りから入り、阿部さんの事
務所は本体の設計、私たちは内装設計、内部の人でコンテンツ会議を作
って出店者を集めて運営までやるチームづくりを担当した。

田中委員 気仙沼の地域の方は被災して大変な時に、(前向きな、地元というよりも、
外からの利用者を想定しているような) 大型の施設ができることに対し
てどう感じていたのか。

時岡委員 内湾地区は既存市街地が完全に流され防潮堤がつくられる場所であった。
その場所が気仙沼のオリジンと考え人が戻ってくる場所に戻したいと考
えている方々(商工会)の意見を踏まえて、寄り添って動いた。防潮堤
を隠す建物を設計のテーマ、海と街を分断しないということを考えてい
た。

田中委員 誰が使うのか、誰が働くのか、どう交流するのかということを考え、地
元のためになる施設にしないといけないと感じている。

積山委員 宿泊のリノベーション、冬に宿泊の人が少なくなっているというが、稼
働率は?物販での維持はどうやっているのか?

時岡委員 古民家を運営している各事業者は稼働率 4 割程度を目指している。我々
は年間 5 割近い稼働している。夏 8 月は 7 割超え、3、4、9~11 月は 5
割、閑散期の 1、2 月は 3 割というところである。閑散期の問題は人の手
が余ることである。その間広報戦略の議論や新商品の開発をしている。
安定した雇用を生むという点で加工場などが果たす役割は大きいと考え
ている。

(3) 意見交換【非公開】

これまでの懇談会やワークショップでの意見交換などを踏まえ、今後の活 用の方
向性の取りまとめに当たっての視点などについて、意見交換を行った。

○ 将来にわたって守り続けるためには、次の視点が重要であることを確認した。

- ・被服支廠の存在を活かしていくこと
- ・被服支廠の価値を継承していくこと
- ・歴史と平和の大切さを伝えていくこと など

○ 被服支廠を活用し続けるためには、次の視点が重要であることを確認した。

- ・被服支廠の存在・価値を県民で共有し広めること
- ・多様な人、主体(行政・団体・民間事業者・個人)が参画し協働で取り組むこと

- ・持続可能性を担保するために運営費を確保すること
- ・時代の変化に対応した活用をしていくこと など

3. 閉会

以上